

■ はじめに

1973年度における当所の研究調査活動等の概要をここに報告する。

この年度には飛鳥地域の保存の方策の一環としての飛鳥資料館の設置，飛鳥藤原宮跡発掘調査部の独立等機構が拡充され，当所の任務もますます重要性を加えるに至った。

1952年，日本文化の発祥の地ともいうべき，価値高い文化財の集中する地域に創設された当所は，遺された文化財に即した調査研究を行うことを主眼とし，文化財保護行政とも密接な連携をとりつつ，今日まで幾多の成果をあげて来た。しかし創設以来既に20年を超えた今日，改めて建所の精神をふりかえり，たゆみない努力をつづけてゆく必要が痛感される。

平城宮跡の発掘調査・整備はもとより新市街建設に対処する平城京の調査，緒についたばかりの飛鳥藤原地域の調査，飛鳥資料館の開館準備，さらに開発による埋蔵文化財の破壊に対処する府県等への専門的指導等，広汎な任務を全うするためには，創設時に比して著しく拡充したとはいえ，現在の人員では困難が多い。特に建所以来の課題である古社寺調査についてその感を深くする。しかしながら今後も所員一同困難にめげず全力をつくす決意を新たにしている。

年報刊行に当り各方面の御理解，御協力をお願いしてやまない。

1975年2月

奈良国立文化財研究所長

小川 修三